

### 3. オンデマンドプログラム

#### 災害・感染症に係る看護職員確保事業 災害支援ナース養成研修

<b>研修目的</b>	1.災害・感染症等に関する基礎知識・技術を習得する。 2.派遣の概要を理解し、研修修了者として実際の派遣時に対応できる技術を習得する。 <b>【災害】</b> 1.看護職として必要な災害医療と看護の基礎知識を習得する。 2.災害時の看護職の役割と活動の実際を理解する。 3.看護職として、被災地や被災者に対して有効に機能できる技術を習得する。 4.災害時に看護職として他者と協働するための知識・技術を習得する。 <b>【感染症】</b> 1.新興・再興感染症に関する基礎的知識を習得する。 2.新興・再興感染症患者に対応できる知識・技術を習得する。 3.酸素療法、呼吸理学療法に関する基本知識を習得する。 4.災害時の感染症対策に関する基本知識を習得する。
<b>対象</b>	・災害・感染症に係る派遣対応看護職員を目指す者で、都道府県行政への情報提供および「災害・感染症医療業務従事者」への登録に同意する者 ※所属の医療機関において、災害支援ナースとして配置される予定の者を優先
<b>研修時間</b>	6日間 { 講義(オンデマンド)4日間:総論 120分/災害各論 540分/感染症各論 540分 演習(集合研修) 2日間:講義 60分/災害 270分/感染症 270分

講義(オンデマンド)【2025年度制作】 ※収録時点の講師の所属・職位を記載しています

章	単元/主な内容	講師(所属等) ※敬称略	視聴時間
1	<b>【総論】</b> 災害・感染症に係る派遣の対応	公益社団法人 日本看護協会	120分
2	<b>【各論(災害)】</b> 災害医療の基礎知識 ・災害とは ・わが国の災害医療体制	小井土 雄一 (国立健康危機管理 研究機構 危機管理 ・運営局 DMAT 事務局)	180分
3	災害時に求められる看護支援活動 ・災害看護とは ・災害時保健医療福祉活動における看護 ・災害の場に応じた看護支援活動 ・災害時要配慮者の特徴と看護	石井 美恵子 (国際医療福祉大学 大学院)	150分
4	災害時の心理的变化とこころのケア ・被災者に生じやすい心理的問題 ・被災者に接する際の基本的留意点 ・わが国の災害精神医療体制(DPAT 含む) ・支援者の惨事ストレスとケア(事例含む)	河嶋 譲 (公益社団法人 日 本精神科病院協会 DPAT 事務局 顧問)	110分

章	単元／主な内容	講師(所属等) ※敬称略	視聴時間
5	災害時の看護職の活動事例 ・派遣された看護職の活動事例 ・活動場所で直面する様々な状況	岡崎 敦子 (独立行政法人国立 病院機構東京医療 センター 災害看護 専門看護師)	60分
6	広域災害・救急医療情報システム(EMIS)について ・EMISとは ・外部連携システム ・操作方法(活動時/登録時)	厚生労働省	40分
-	災害 確認テスト	10問	-
7	<b>【各論(感染症)】</b> 新興・再興感染症の基礎知識 ・新興・再興感染症/パンデミック ・新興・再興感染症等の感染拡大時における医療提供体制の確保	大曲 貴夫 (国立国際医療研 究センター国際感 染症センター長・感 染症内科医長)	60分
8	新興・再興感染症の基礎知識 1)感染拡大・重症化を防ぐ技術の提供に必要な知識 ・標準予防策(手指衛生・PPE(個人防衛具)の種類や着脱等) ・経路別予防策(隔離、ゾーニング) ・環境整備・廃棄物・寝具・食器、汚染機材の取り扱い 2)院内感染発生時の初期対応・クラスター発生予防の対策	美島 路恵 (東京慈恵会医科 大学附属病院・感 染対策部 感染管 理認定看護師)	60分
9	災害支援ナースが知っておきたい感染症	具芳明 (東京科学大学大 学院歯学総合研 究科 統合臨床感 染症学分野 教授)	60分
10	呼吸器感染症患者の看護(軽～中等症) 1)重症化予防のための患者評価と対応① ・緊急性の判断と急変対応 ・重症化予防 ・異常の早期発見 ・患者家族への精神的ケア ・医療機関と在宅・宿泊療養での対応の特徴	桑村 直樹 (医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院看 護部 副看護部長/ クリティカルケア特 定認定看護師)	60分
	2)重症化予防のための患者評価と対応(軽～中等症)② ・酸素療法 ・呼吸理学療法 ・体力の消耗を最小限にするための患者への生活指導	有田 孝 (一般社団法人平 成紫川会 小倉記 念病院 集中ケア認定看護 師)	60分

章	単元／主な内容	講師(所属等) ※敬称略	視聴時間
11	3)患者家族への精神的なケア ・隔離による不安、意思決定支援、看取り等	立野 淳子 (小倉記念病院看護部 クオリティマネジメント科 科長 急性・重症患者看護 専門看護師)	60分
12	災害時の感染症対策 1)避難所で問題となる感染症	森下 幸子 (地方独立行政法人 奈良県立病院 機構奈良県総合医療センター 看護副部長兼 感染対策室副室長 感染管理特定認定看護師)	60分
13	2)避難所等における感染拡大防止の実際① ・トイレの清掃方法 ・環境整備 ・食中毒防止のための食品管理 ・嘔吐物、下痢の処理	佐藤真裕美 (自衛隊札幌病院 医療安全評価官付 院内感染対策幹部 感染管理特定認定看護師)	60分
	3)避難所における感染症発生時の対策②-事例を通して- ・経路別予防策(隔離、トイレや手洗い場等の検討)	浅利菜穂子 (国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター看護師長 感染管理認定看護師)	60分
	感染症 確認テスト	10問	

## 4. 集合研修（演習）プログラム

### 【演習：講義】

時間		プログラム	ねらい	学習内容	講師
60分	講義	●●県における災害・感染症に係る派遣時の看護支援活動	災害時および感染症の発生・まん延時の看護職の活動の実際を想定することができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●●県の災害・感染症に係る派遣・医療提供体制の状況や対策（派遣の仕組み、登録含む）</li> <li>●●県看護協会における災害・感染症に係る派遣時の看護支援活動</li> </ul>	各県協会 もしくは 県行政

※2日間の集合研修（演習）のうち、初日の集合研修（演習）で実施

### 【演習（災害）】災害時の看護職の活動の実際

時間		プログラム	ねらい	学習内容	演習指導者
10分		オリエンテーション			各県協会
50分	ワーク	災害時の看護職の活動の実際 1) 派遣決定から出発までの準備 【演習1】派遣決定から出発までの準備（情報収集の内容と手段、派遣要請時の職場や家庭の調整、派遣に係る確認事項と準備、携行品）	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時の看護職の活動の実際を想定することができる</li> <li>災害時に看護職として活動する際の基本的な心構えがわかる</li> <li>災害時の看護職の活動の展開と展開にあたっての留意事項がわかる</li> </ul>	（状況付与1 災害発生） （状況付与2 派遣決定） <ul style="list-style-type: none"> <li>情報収集の内容と手段</li> <li>派遣要請時の職場や家庭の調整</li> <li>派遣に係る確認事項と準備</li> <li>携行品</li> </ul>	企画・指導者研修修了者、DMAT指導者、都道府県看護協会が開催した旧災害支援ナースに対する研修において演習指導者を務めた経験がある者、災害看護専門看護師、その他これに準ずる者
60分		2) 災害医療対応の原則 【演習2】災害医療対応の原則（支援者としての心構え、災害医療対応の原則、活動場所の違いによる活動の特徴（医療機関、避難所））		<ul style="list-style-type: none"> <li>支援者としての心構え</li> <li>災害医療対応の原則</li> <li>安全管理</li> <li>活動場所到着時に行うこと</li> <li>活動場所の違いによる活動の特徴                             <ul style="list-style-type: none"> <li>a) 医療機関での活動の特徴</li> <li>b) 避難所での活動の特徴</li> </ul> </li> </ul>	

60分	休憩			
50分	ワーク	3) 方針に沿った活動 【演習3】発災後3日目に避難所に派遣された場合(活動方針の考え方、受診等が必要な場合の対応)	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時の看護職の活動の実際を想定することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動方針の考え方</li> <li>受診等が必要な場合の対応</li> </ul>
50分		【演習4】発災後1週間目に避難所に派遣された場合(他職種、他機関との連携、新たな活動を依頼された場合の対応)	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時に看護職として活動する際の基本的な心構えがわかる</li> <li>災害時の看護職の活動の展開と展開にあたっての留意事項がわかる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他職種、他機関との連携</li> <li>新たな活動を依頼された場合の対応</li> </ul>
50分		【演習5】発災後1か月目に避難所に派遣された場合(活動終了に向けて行うこと、報告と記録、帰還後に行うこと)		<ul style="list-style-type: none"> <li>活動終了に向けて行うこと</li> <li>報告と記録</li> <li>帰還後に行うこと</li> </ul>
10分		まとめ		

## 【演習（感染症）】

時間		プログラム	ねらい	学習内容	演習指導者
		オリエンテーション			
50	実技 ワーク	感染拡大時の 感染症対策	感染拡大や重症化予防に向け、医療機関やそれ以外の施設の特徴を踏まえた標準予防策およびゾーニングの基礎を学ぶ	ゾーニングの考え方や留意点を学ぶ ・事例をもとに、どのような場面でゾーニングが必要か、拡大を防止できるゾーニングかについて考える	企画・指導者研修修了者、感染症看護専門看護師、感染管理認定看護師、急性・重症患者看護専門看護師、集中ケア認定看護師、救急看護認定看護師、クリティカルケア認定看護師その他これに準ずる者
40		1) 感染拡大・重症化の予防		必要な个人防护具の選択を学ぶ ケア中の感染リスクを学ぶ ・事例をもとに、どのような場面でどのような个人防护具が必要であるかについて考える	
40		2) ケア実施における感染対策		派遣時の心構えや派遣先での適切な行動を学ぶ ・事例をもとに、派遣先のスタッフ、関係者と連携し、医療提供する上で、必要なコミュニケーションについて考える	
30	実技 ワーク	災害時の感染症対策	避難所で活動している多種多様な人々との連携を学ぶ ・事例をもとに、DMAT や保健師、ケアマネジャー等の医療職や、医療職以外の人々との連携について考える		
55		1) 多職種との連携	避難所での感染拡大予防を学ぶ① ・トイレの清掃方法を体験し、医療職以外の人への指導について考える ・嘔吐物、下痢の処理を体験し、医療職以外の人への指導について考える		
45		2) 感染拡大の予防	避難所での感染拡大予防を学ぶ② ・インフルエンザ、発熱者等、体調不良者がいる場合の避難所のレイアウトについて考える		
10		まとめ			

※演習は、状況設定問題等を用いて一方的な講義ではなく、ワークや話し合い、体験により、学びを深める工夫を行う

※ワークは、机上での複数人での話し合いを行うグループワークとする。実技は、必要物品を使用した体験学習とする